

## 「保健分野における日米パートナーシップ」の概要

平成21年6月  
外務省多国間協力課

### 1. 経緯

- (1) 2002年6月、外務省と United States Agency for International Development (USAID、米国国際開発庁)との間で、「保健分野における日米パートナーシップ」立ち上げ。日米合同プロジェクト形成調査を経て、連携が順次行われた。2003年6月、「保健分野における日米パートナーシップに関する取組の再確認」文書に署名。外務省、JICA、USAIDによるアクション・プランを作成。以降年1回程度レビュー会合を開催(直近は2008年3月開催)。
- (2) これまでに、USAID/JICA 人事交流、合同プロジェクト形成調査(バングラデシュ等6カ国)、現地プロジェクトレベルでの連携などを実施。
- (3) 2009年6月、G8 北海等洞爺湖サミットの成果、オバマ新政権下での米側の新方針を踏まえて、2009年—2010年のアクション・プランを新たに作成、22日に署名した。(署名者は日本側が外務省国際協力局参事官、JICA 人間開発部部長、米側は USAID 副長官代行)。

### 2. 新アクション・プラン(2009-2010年)の概要

#### (1) ポイント

- オバマ大統領によって発表された新たな国際保健イニシアティブの内容を踏まえ、日米協力の範囲をより包括的なものとした。
- G8 北海道洞爺湖サミットにおいて、我が国が主導した保健システム強化について、日米の新たな連携を模索することを盛り込んだ。
- 最近の H1N1 インフルエンザの発生を踏まえ、今後途上国でも被害が広がる場合の危機に備えるため、連携の可能性を模索することを盛り込んだ。

#### (2) 協力の分野

- (イ) 保健システム強化(アフリカにおける保健医療従事者の人材育成、保健情報に関する連携の模索などが重点。)
- (ロ) 母子保健(ミレニアム開発目標(MDGs)の中で最も進捗が遅れている分野)
- (ハ) 家族計画とリプロダクティブ・ヘルス(オバマ政権が援助を再開した分野)
- (ニ) 感染症対策(HIV/エイズ、マラリア、結核、ポリオ、顧みられない熱帯病、鳥・  
新型インフルエンザ)
- (ホ) 水・衛生(保健と密接な関係がある分野での取組強化)

(了)